

# 15 労働災害多発者のバイオリズム表と血液型

乙供営林署 ○北村 清司  
今城 千皓

## 1 はじめに

当署は、昭和31年度から平成4年度の37年間に210件の公務災害が発生している。死亡災害は、昭和31年度と57年度にそれぞれ1件発生しているとともに、最多発生件数は16件という年度があるなど災害多発署としての位置にある。

このことから、最近では、62年度から平成4年度の間にも4回も「安全管理重点営林署」の指定を受けたこともあり、その汚名返上のため全職員が懸命に取り組んでいるところである。しかしながら、「災害ゼロ」は、これまでの37年間の

表-1 公務災害発生件数(昭和31年度~平成4年度)

| 区 分    | 労働災害 |     | 通勤災害 | 計   |
|--------|------|-----|------|-----|
|        | 災害   | 疾病  |      |     |
| 総 件 数  | 174  | 39  | 7    | 210 |
| 年 平 均  | 4.7  | 1.1 | 0.2  | 5.7 |
| 年度最多件数 | 16   | 10  | 3    | 16  |

中で昭和51年度に1回達成したのみで以降、毎年度災害が発生している状況にある。安全管理者として「災害ゼロの達成」に向けて安全指導を強化するため、当署における過去37年間の公務災害210件について分析することとした。

## 2 分析の方法及び結果

災害多発者の災害傾向を中心に、災害発生日とバイオリズム表との関係、災害と血液型による性格との関係、被災の傾向について調査した。

### (1) 災害発生日とバイオリズム表

表-2のとおり、当署における過去37年間の全災害（現認書災害と通勤災害を含む。）210件のうち生年月日不明者5件を除く205件について、災害発生日とバイオリズム表との関連を分析したところ、バイオリズム表の要注意日当日に発生した災害が27%（55件）、要注意日の前後1両日に発生した災害が29%（59件）

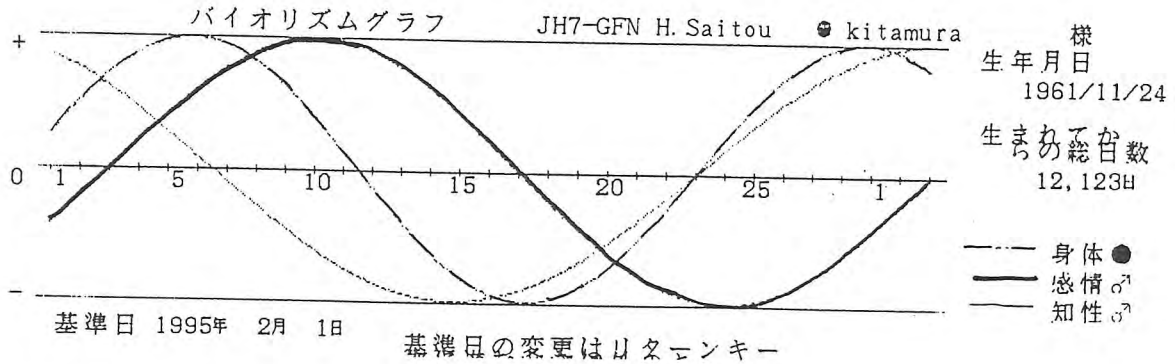
表-2 災害発生日とバイオリズム表

| 災害発生日       | 過去37年間 |     | 現職1回以上 |     | 現職3回以上 |     |
|-------------|--------|-----|--------|-----|--------|-----|
|             | 件数     | 比率  | 件数     | 比率  | 件数     | 比率  |
| 当 日         | 55     | 27  | 20     | 28  | 17     | 34  |
| 1 日 前 後     | 59     | 29  | 18     | 26  | 15     | 30  |
| 2 日 前 後     | 44     | 21  | 20     | 28  | 9      | 18  |
| 3 日 前 後 以 上 | 47     | 23  | 13     | 18  | 9      | 18  |
| 計           | 205    | 100 | 71     | 100 | 50     | 100 |

となっており、合わせて56%（114件）であった。

現職員はどうだろうか。表-3のとおり、平成5年度当初における当署の現場職員は、27名（基職25名、定期2名）で、うち24名（89%）が69件の公務災害を経験している。災害経験回数3回以上の者が11名（41%）、災害は50件で最

図-1 バイオリズム表



高 8 回の災害経験者  
もいる。

表-3 在職者の災害傾向(平成5年度当初)

|       |    |    |    |   |   |   |   |   |     |    |
|-------|----|----|----|---|---|---|---|---|-----|----|
| 回数(回) | 0  | 1  | 2  | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8   | 計  |
| 人員(人) | 3  | 5  | 8  | 5 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1   | 27 |
| 比率(%) | 11 | 48 | 41 |   |   |   |   |   | 100 |    |

現職員の災害経験 1  
回以上の者のバイオリ  
ズム表と災害発生日と

の関係は、要注意日当日と要注意日の前後 1 両日に発生した災害を合わせると 54% (38 件) であり、過去 37 年間の全災害の発生率と、ほぼ同じ傾向を示している。

一方、現職員で 3 回以上の災害経験者 11 名について抜き出してみると、その比率は、実に 64% となっており過去 37 年間の災害に比べ 8 ポイント高くなっている。バイオリズム表の要注意日当日と要注意日の前後 1 両日に発生した災害を合わせた比率は 100% の者が 3 名、87% の者が 1 名おり、言い換えれば、現職員で 3 回以上の災害経験者は、バイオリズム表の要注意日に災害が発生する率が高い傾向にあるといえる。

(2) 災害と血液型

性格を評価することは大変難しいことではあるが、血液型による性格と災害の傾向を次に調べることにした。

それぞれの血液型の者が災害を何回経験しているかを調べ、血液型別の災害頻度の順位を見ることとし、他 2 署の A 署と N 署と合わせた 139 名 309 件の災害傾向を調べた結果、表-4 のとおりであった。

表-4 血液型と災害発生頻度

| 血液型 | 乙供署 |    |     |    | N 署 |     |     |    | A 署 |     |     |    |
|-----|-----|----|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|
|     | 人員  | 件数 | 頻度  | 順位 | 人員  | 件数  | 頻度  | 順位 | 人員  | 件数  | 頻度  | 順位 |
| A   | 12  | 33 | 275 | ②  | 17  | 33  | 194 | ②  | 29  | 67  | 231 | ②  |
| B   | 5   | 13 | 260 | ③  | 12  | 20  | 167 | ④  | 3   | 5   | 167 | ④  |
| O   | 12  | 34 | 283 | ①  | 18  | 37  | 206 | ①  | 14  | 34  | 243 | ①  |
| AB  | 0   | 0  | 0   | -  | 10  | 19  | 190 | ③  | 7   | 14  | 200 | ③  |
| 計   | 29  | 80 | 275 |    | 57  | 109 | 191 |    | 53  | 120 | 226 |    |

当署については、過去の災害経験者で血液型が明らか者 29 名、80 件の災害について調べた。A 型の者が 12 名で 33 件の災害を経験している。災害件数の 33 件を 12 名で除し 100 を乗じたものを災害発生頻度指数とし、その指数は 275 であ

った。同様に、B型、O型の指数はそれぞれ260、283で、O、A、Bの順であった。なお、AB型の災害経験者は一人もいなかった。

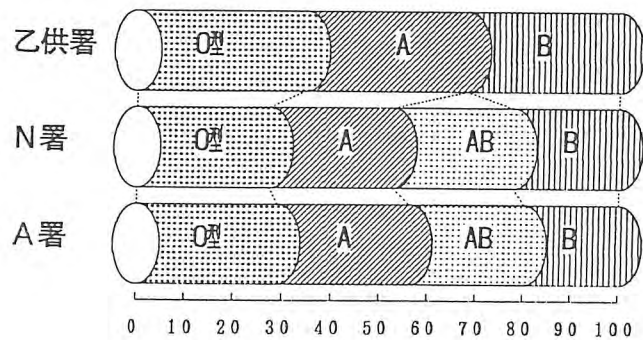
前任地のA署はどうなっているだろうか、比べることとした。A署では、53名が120件の災害を経験しており、それぞれ災害発生頻度指数は、A型が231、B型が167、O型が243、AB型が200であり、O、A、AB、Bの順であった。

さらに、隣接署(N署)についても検証したところ、57名、109件の災害発生頻度の順は、A署と同じO、A、AB、Bで指数は206、194、190、167となっている。

以上の結果から、O型とA型の者は災害回数が多く、B型の者は、災害回数が少ない傾向にあると言える。

図-2 血液型と災害多発傾向

性格と労働災害の関係については、「災害有無別林業労働者の矢田部・ギルフォード性格検査プロフィール」によりすでに明らかにされているところである。これによると生産手(伐木・集材)の場合「非協力的で、しかし、活動的でのんきな性格を持つ人が災害を起こすことが多い」と



分析している。今回調査した血液型による性格と公務災害の関係では、同様に、一般的に言われている「活動的でのんきな性格」を持つO型、A型の者が災害多発の傾向にあることが分かった。

### (3) 災害多発者の受災傾向

次に受災傾向を見てみることにした。表-5のとおり類似災害を繰り返していることや同じ部位をケガしていることが分かった。

まず、基職A氏の場合通勤災害を含め8回の災害を経験しているが、受災部位が右手、右膝に多いのが特徴となっている。

基職B氏の場合は、左右の下腿部の受災が目につく。さらに基職C氏にあっては左の膝が、基職D氏にあっては、腰部の捻挫が2回あり、腰に弱点があることが気にかかる場所である。

表-5 受災の傾向

| 基職A氏       | 基職B氏      | 基職C氏   | 基職D氏           |
|------------|-----------|--------|----------------|
| 左膝関節部切創    | 左下腿部切創    | 左胸部打撲  | 腰部打撲傷          |
| 左第9.10肋骨骨折 | 右膝部切創     | 左膝切創   | 左側頸部切創         |
| 右腕関節肘関節捻傷  | 左中指挫創     | 左膝部挫滅傷 | 腰部捻挫           |
| 右手掌切創      | 左足底刺傷     | 蜂刺傷    | 右第1趾挫傷心筋腱断裂    |
| 通勤災害       | 左側腹部刺傷(蜂) | 蜂刺傷    | 右第10.11.12肋骨骨折 |
| 通勤災害       | 頭部蜂刺傷     |        | 腰部捻挫           |
| 右角膜びらん     |           |        | 蜂刺傷            |
| 右膝部切創靱帯損傷  |           |        |                |

### 3 分析結果のまとめ

災害分析結果を整理すると次のとおりである。

- (1) 現職27名中、これまでに一度も災害を経験していない者が3名いた。一方、災害経験者は24名で89%は、災害経験者である。
- (2) 現職のうち災害経験3回以上の者は、他の者よりもバイオリズム表の要注意日に災害が発生する率が高い。
- (3) 災害発生頻度指数の高い血液型は、O型、A型、AB型、B型の順となっており、活動的でのんきな性格を持つ人が災害多発の傾向にある。
- (4) 災害多発者は、類似災害を繰り返し、同じ部位をケガしている。

### 4 おわりに

バイオリズム表の要注意日当日及びその前後1両日に災害が発生する率が高いことから、バイオリズム表を各人に毎月配付するとともに、安全懇談会や安全点検等の際において、以上の分析結果を基に個別指導を含めた具体的な安全指導を行ってきた。

当初、現場職員に対して、過去の災害を語ることはタブーとされていたが、これらの具体的な事例を示すことにより各人が興味を持ち、耳を傾けてくれた。

安全の確保は、営林署全体に課せられた至上命題であり、全職員が何よりも、まず取り組まなければならない重要課題である。労働安全意識の高揚には、動機付けが重要である。不謹慎ではあるが時には、「遊び心的」な指導も必要ではないかと考える。各人が労働安全に対して常に興味を持ち続けるような安全指導等により、今後とも、楽しく災害を防止する方法を見い出して行きたいと思う。

なお、当署は、全職員が一丸となってそれぞれの持ち場、立場で「災害ゼロを達成」に向けて努力を重ねてきた結果、平成5年度においては、蜂災害等疾病の現認書災害もゼロという17年ぶりに無災害を達成することができ、さらには、平成4年6月15日以降、本日（平成7年2月9日）現在まで、無災害969日めとなっており、実質的には2年8か月の連続無災害を継続中である。